

憲政館と「憲政之祖国」碑

■東九反田公園 史跡案内 四■

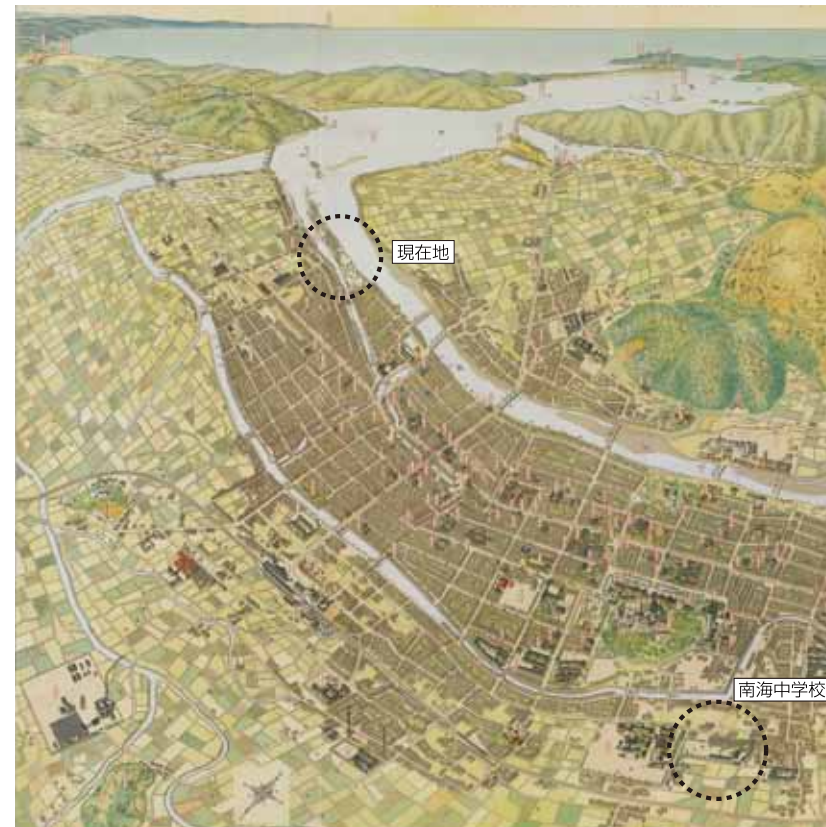
昭和11年、土佐政界の長老たちが大松倶楽部という親睦団体を創立しました。

昭和16年に大松倶楽部は、当時料亭として使われていた板垣旧邸を移築して憲政館と命名し、さらに「憲政之祖国」碑、「嗚呼不朽」碑を建立して、我が国の憲政創設に果たした土佐の功績を後世に伝えようとなりました。

これらの事業の中心で活動した水野吉太郎は、伊藤博文を暗殺した朝鮮独立運動家・安重根の国選弁護人を務めた人物でした。

戦後、憲政館が老朽化したため、板垣会や土佐史談会の陳情もあって、高知市は昭和41年高知市憲政記念館を新築開館し、憲政資料を収集、展示しました。

その後、高知市憲政記念館も老朽化が進んだため、平成16年その機能を高知市立自由民権記念館に移して取り壊し、新たに史跡公園として整備することとなりました。



「鳥瞰式 高知市街立体圖」(昭和12年)
南国土佐大博覧会を記念して製作された
高知市を北から見た鳥瞰図



憲政館
板垣退助旧邸を移築したもので、潮江新田にあった頃は、多くの民権家が訪れる自由民権運動の根城であった
右端の「憲政之祖国」碑の位置から憲政館が敷地西側にあったことが分かる